

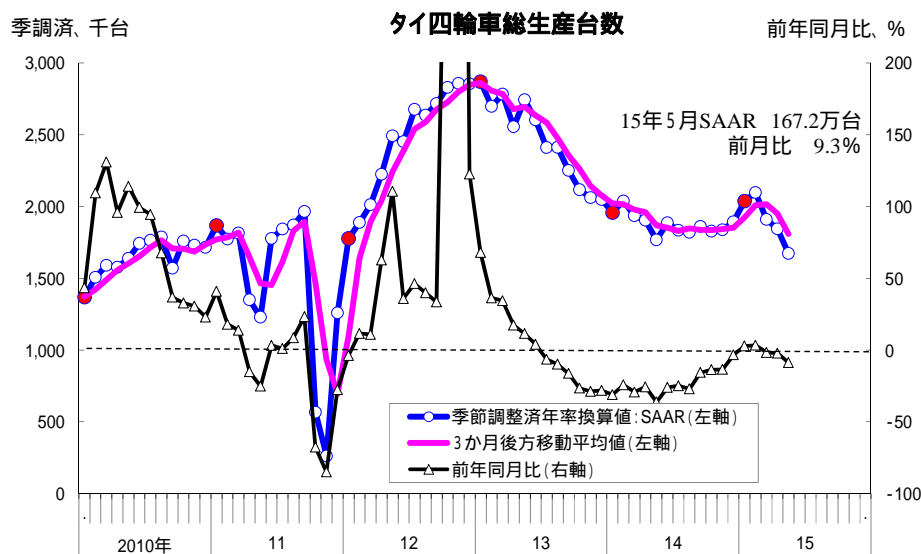
**タイ自動車市場月次統計（2015年5月）**

5月は大型モデルの新旧切り替えに伴う輸出減少で大幅減産：国内販売は反転増加

**トヨタ新型IMVの輸出展開の規模とスピードが今後の注目点**

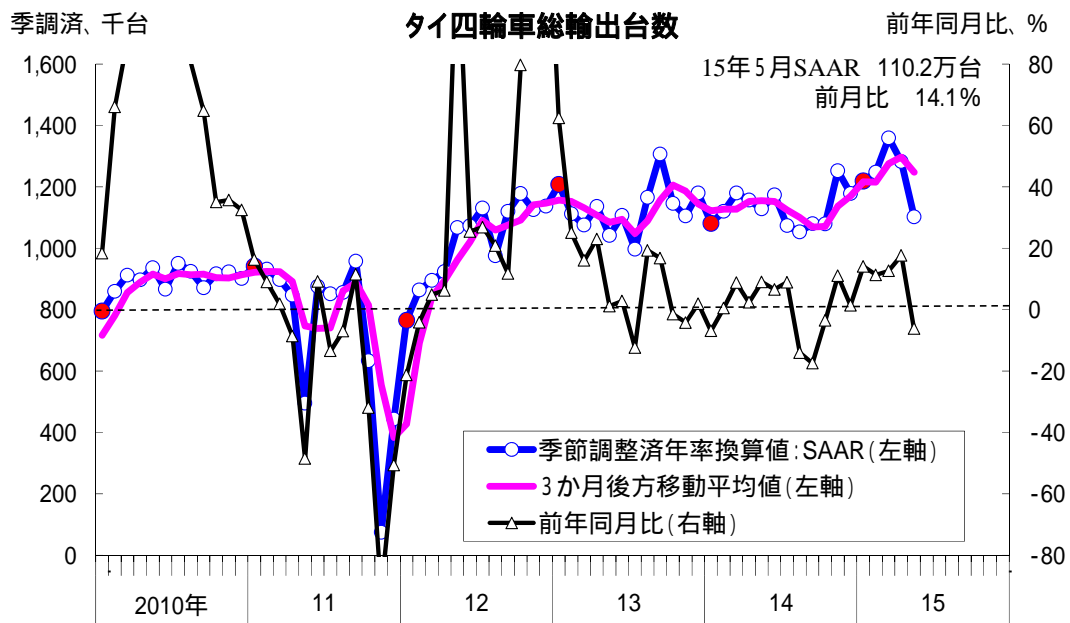
- ・ 6月23日にタイ工業連盟（Federation of Thai Industries）が発表した2015年5月の四輪車生産台数は前年同月比8.8%減の13.5万台と3か月連続の前年割れとなり、季節調整済年率算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)も前月比9.3%減の167.2万台と、大きく落ち込んだ。（図表1）
- ・ 5月の大幅減産の背景には、トヨタ自動車の世界戦略車「IMV」のピックアップトラック「ハイラックス」をフルモデルチェンジしたことがある。同モデルは5月21日にタイで発売されたが、全世界に向けて輸出されていた旧モデルの生産は4月末に打ち切られた。新モデルの当初の販売はタイ国内向けとなっており、全世界への輸出は今後、順次開始される予定である。従って、IMVの新旧モデルの切り替えに伴い、輸出が減少したことによって、国内生産が一時的に大きく減少したことになる。
- ・ 実際、5月のタイの四輪車総輸出台数は前年同月比6.2%減と7か月ぶりに前年同月を下回った。SAARも前月比14.1%減の110.2万台と大きく減少した（図表2）
- ・ 一方、5月のタイの総販売台数は前年同月比18.3%減と25か月連続で前年を割り込んだが、SAARは前月比5.5%増の72.8万台となり、新型IMVの市場投入もあって、若干ではあるが持ち直した（図表3）。もっとも、農産物価格の低迷により農民の購買意欲が減退していることと、自動車ローン審査の基準厳格化が国内販売の足かせとなっている状況に変わりはなく、依然として予断の許さない市場環境であることには変わりはない。
- ・ 目先の注目点は、引き続き、トヨタ新型IMVの輸出展開の規模とスピードとなる。輸出が生産の下支えとなる状況が続くと予想するが、内需低迷が続く中、タイ国内生産のけん引役である輸出が世界景気の悪化により下押しされるリスクもあり、要注意である。

図表1 5月の自動車生産台数（SAAR）は大幅に減少



注1： 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
 注2： SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
 出所： Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数のSAARも大幅に減少

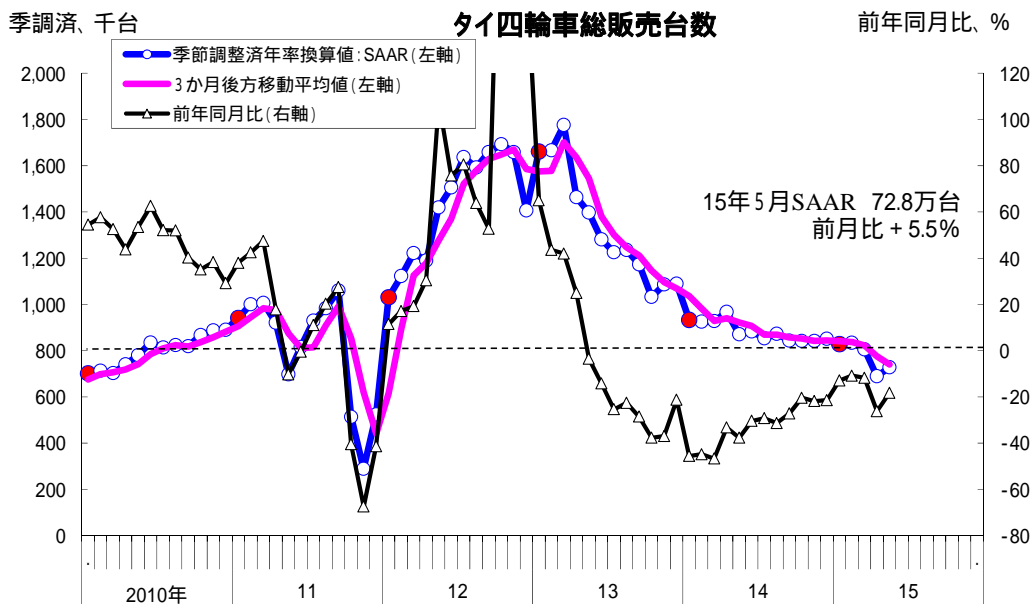


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 国内販売は反転増加したが予断を許さない状況が続く



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

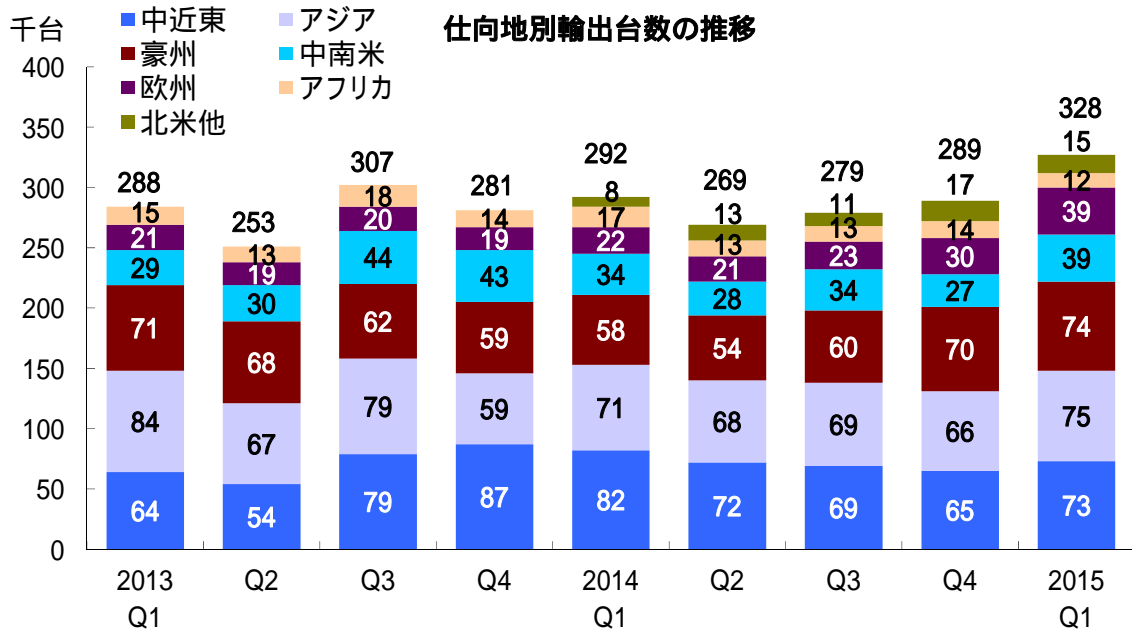
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

2015年第1四半期輸出台数：豪亜に加え欧米向け輸出も拡大。乗用車の世界展開も後押し

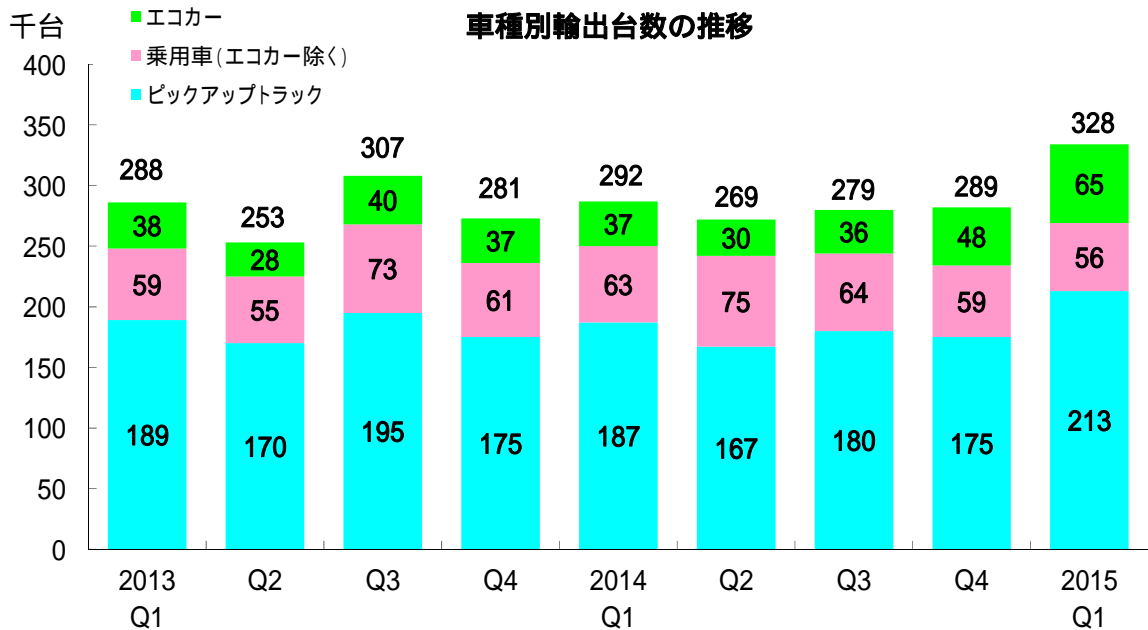
- ・ 2015年第1四半期の輸出台数の中身を見ると、タイ周辺国の豪亜地域向けに加え欧米向けでも拡大しており、タイ生産車の世界拡販が進んでいる。また、車種別で見ると、ピックアップトラックに加え、エコカーを中心とした乗用車の輸出が増えていることも注目される。タイの国内販売は低迷が続いているが、日系を中心とした自動車メーカー各社は、全世界でタイ生産車を拡販することで、タイでの自動車生産の拡大を推進している。
- ・ タイ工業連盟のホームページでは仕向地別の輸出台数の推移を確認することができない。しかし、同連盟に加盟する現地部品企業 Somboon Advance Technology PCL. (SAT社)が、アナリスト・機関投資家向けに公表した決算説明資料には詳細数値が掲載されている(同資料は同社のホームページにも掲載されている)。図表4と5は同資料に掲載されている、仕向地別輸出台数および車種別輸出台数の推移を示したものである。
- ・ 仕向地別輸出台数の2014年第1四半期からの推移を前年同期間比でみると、アジア市場向けの四輪車輸出は、ASEAN域内でのマクロ経済成長の鈍化を背景に14年第3四半期まで低調であったが、第4四半期からは回復基調に入っている。豪州向けの四輪車輸出は新型モデルの積極拡販で14年第3四半期から拡大し、欧州向けの輸出も同四半期から増加している。中南米及び北米他地域向けは、直近の15年第1四半期において大きく増加した。以上のように、タイ生産車両の輸出は、周辺国向けのみならず、欧米向けへと世界展開が進んでいる。
- ・ 一方、車種別輸出台数の推移をみると、まず、ピックアップトラックの輸出台数が直近の15年第1四半期に大きく増加に転じたことが分かる。これは、いすゞ自動車の輸出が堅調なことに加え、三菱自動車は新型車「トライトン」を市場投入したこと、日産自動車は「NP300 ナバラ」の輸出仕向地を拡大させていること、などが背景にある。
- ・ そして、最後に注目すべきは、乗用車の輸出が15年第1四半期に大きく拡大したことである。中でも、エコカーの輸出台数の増加が著しい。ちなみに、タイにおける「エコカー」の定義は、タイ政府の第1期エコカー政策において優遇税制が認められる、燃料1リッター当たり20.0km以上の燃費性能を有し、二酸化炭素排出量が1km走行当たり120g以下(欧州Euro 4対応レベル)のガソリン車(排気量1,300cc以下)及びディーゼル車(排気量1,400cc以下)となる。日系自動車メーカーが得意とするエコカーの世界展開が、従来ピックアップトラックを中心としていた輸出の拡大を後押ししている。
- ・ 輸出台数の中期的な見通しとしては、1ページで述べたトヨタIMVの新旧切替えの影響が15年第2四半期(4~6月)の下押し要因となる可能性がある。もっとも、15年第3四半期以降は、IMVの輸出仕向地の拡大や、その他ピックアップトラックのマイナーチェンジを含む新型車の投入、エコカーを中心とした乗用車の更なる輸出拡大を背景に、輸出は堅調に拡大していくものと予想する。

図表4 豪亜に加えて欧米地域への輸出も拡大



出所: Somboon Advance Technology PCLのHP公表資料

図表5 ピックアップトラックに加えエコカーを中心に乗用車の輸出も拡大



出所: Somboon Advance Technology PCL公表資料を基に浜銀総合研究所が作成

担当: 調査部 産業調査室 深尾三四郎  
 TEL 045-225-2375  
 E-mail: [fukao@yokohama-ri.co.jp](mailto:fukao@yokohama-ri.co.jp)

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報原に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。